



The
R
E
C
O
R
D

2016
7
july

VOL.680

| 平成 27 年度事業報告
| Music Jacket Gallery 2016 開催

Monthly News Digest

Contents

Monthly News Digest.....	1
特集	
平成 27 年度事業報告	3
特報	
Music Jacket Gallery 2016 開催	7
タイ・バンコクで国際ドラマフェスティバル「J-Series Festival」開催	9
第 13 回東京国際ミュージック・マーケットが開催決定	10
「知的財産推進計画 2016」が決定	11
ヒットの裏側	12
Monthly Production Report	13
GOLD DISC	14

5/11・12 IFPI国際演奏権委員会開催

5月11日、12日の2日間、スイス・ジュネーブにおいてIFPI国際演奏権委員会（Global Performance Rights Committee）が開催され、当協会著作権・契約部の苅部契約担当課長、越坂部課長補佐が出席した。

この会議は、レコード使用料（放送・演奏、ネット送信など）の徴収・分配に関する諸課題を検討する場として毎年開催されるもので、世界各国のレコード使用料徴収団体のほか、メジャーレーベルの担当責任者など約120名が参加した。

1日目は、IFPI事務局から2015年度のレコード使用料徴収実績が報告された後、分配業務の効率化を目的としたデータベース構築について、ドイツ、カナダの取り組みのほか、中国のカラオケ使用料徴収業務について紹介された。続く2日目は、使用料徴収の拡大に向けた検討・意見交換や関連判例の報告が行われた。

また、今回IFPI国際演奏権委員会が開かれたWIPO（世界知的所有権機関）本部では、5月9日～13日の日程で第32回著作権・著作隣接権に関する常設委員会（SCCR：Standing Committee on Copyright and Related Rights）が開催されていたことを受け、10日にはIFPI事務局によるランチディスカッションが設けられた。「持続可能な音楽産業の構築」



をテーマとした基調講演・パネルディスカッションには、SCCR出席者ら約40名の参加があった。

5/13 レコード倫理審査会勉強会開催

5月13日、当協会第1会議室において、日本放送協会（NHK）考査室行成卓巳室長を講師に、レコード倫理審査会の勉強会が開催された。

今回の勉強会は、レコード倫理審査会の委員が、音楽業界のみならず放送業界の倫理や過去の事例を学び、幅広い知識を習得することにより、レコード制作者としての社会的倫理責務の強化を図ることを目的に開催された。

行成室長は具体的な事例をもとに、NHK考査室の役割や取り組み、今後の展望について講義を行った。その後、質疑応答が行われ、勉強会は盛況のうちに終了した。



5/25 文化芸術振興議員連盟 第4回総会開催

5月25日、東京・千代田区の衆議院第二議員会館において、文化芸術振興議員連盟第4回総会が開催された。文化芸術振興議員連盟は、音楽、演劇、舞踊、演芸、伝統芸能など実演芸術、映画および美術等文化芸術を通じて、国民のなかに豊かな情操を養い、また



このエルマークは、レコード会社・映像製作会社が提供するコンテンツを示す一般社団法人日本レコード協会の登録商標です

あらゆる機会をとらえて行政府、立法府の文化政策の方向について、抜本的な意識改革をめざす一方、わが国の文化芸術が直面する諸問題に対し超党派で寄与し、文化芸術の振興を図ることを目的としている。当面の具体的な目標は次の通りである。

1. 国家予算に占める文化予算の割合を中長期的に0.5%に高めることをめざす
2. 「文化省」の創設をめざす
3. デジタル時代、グローバル化社会に対応して懸案となっている著作権課題の解決をめざす

総会は浮島智子事務局次長の司会進行ではじまり、河村建夫会長の挨拶に続き、「1) 文化芸術推進フォーラム（野村萬議長）からの要望について」、「2) 文化芸術振興議員連盟の今年度の活動について」、「3) 2016年の役員体制について」の順で議事が進められた。

特に、文化芸術振興議員連盟の今年度の活動では、文化芸術推進フォーラムのキャンペーンへの協力や研究会等の開催を含む次のような今年度の活動計画が示され承認された。

1. 「五輪の年には文化省」の創設に向け、2017年度文化予算の大幅増額をめざす
2. 実演芸術、劇場、映画、美術などの政策を研究するため研究会等を開催する
3. デジタル化、グローバル化した社会のなかで、映画・映像の権利のあり方および懸案の著作権・隣接権課題を検討する。

また、2016年の役員体制についても諮られ、次の通り承認された。

■ 2016年役員体制

会長	河村 建夫	自由民主党
幹事長	塩谷 立	自由民主党

副会長	枝野 幸男	民進党
副会長	斉藤 鉄夫	公明党
副会長	市田 忠義	日本共産党
常任理事	松田 公太	日本を元気にする会
常任理事	中山 恭子	日本のこころを大切にする党
常任理事	松浪 健太	おおさか維新の会
事務局長	伊藤 信太郎	自由民主党
事務局次長	古川 元久	民進党
事務局次長	浮島 智子	公明党

出席した議員からは、「文化省」創設に向けた取り組みの強化、文化芸術振興基本法の見直しの要望に加え、文化庁の移転問題や著作権教育といった旬の話題に係る意見も飛び出すなど、大変活発な意見交換がなされる総会となった。

なお、役員以外での出席議員は以下の通り。

大島 章宏（民進党）、松島 みどり（自由民主党）、平野 博文（民進党）、二之湯 武史（自由民主党）、新妻 秀規（公明党）、小坂 憲次（自由民主党）



●●●当協会役員人事●●●

■ 新任（6月17日付）

【理事】

中谷 幸夫

株式会社ティチクエンタテインメント
代表取締役会長

■ 退任（6月8日付）

【理事】

石橋 誠一

株式会社ティチクエンタテインメント
代表取締役社長

RIAJ2016年6月度理事会・総会議案

定時総会議案

■ 審議事項

1. 平成27年度事業報告書（案）の件
2. 平成27年度決算報告書（案）の件
3. 役員選任の件
4. 常勤役員報酬の件

第494回理事会議案

■ 審議事項

1. 会長選任の件
2. 副会長選任の件
3. 常勤役員及び事務局長選任の件
4. 顧問委嘱の件
5. 委員会体制変更の件
6. 「第9回CDショップ大賞2017」への協賛について
7. 熊本地震被災レンタル店への支援について
8. 平成28年度海外展開事業施策について
9. 「レコーディングスタジオ見学企画」に係る予備費支出について

■ 報告事項

1. 名義使用申請に関する件
 - (1) 日本レコード商業組合「2016にっぽんうたまつり」協賛名義使用依頼
 - (2) 電子情報技術産業協会「CEATEC JAPAN 2016」協賛名義使用依頼
2. 法制委員会関係報告
 - (1) 文化庁・法制・基本問題小委員会（6/6）報告
 - (2) 文化庁・著作物等の適切な保護と利用・流通に関する小委員会（6/6）報告
 - (3) コミュニティ訴訟報告
3. 海外マーケティング委員会関係報告
 - (1) 民放連／ドラマフェスティバル in バンコクおよびインスタライブ実施結果報告
4. 広報関係報告
 - (1) 平成28年度レコード寄贈について

平成27年度事業報告

平成27年の市況を振り返ると、音楽パッケージソフト（オーディオレコードおよび音楽ビデオの合計）の年間生産金額が前年比100%の2,544億円と3年ぶりに下げ止まり、有料音楽配信の売上金額は前年比108%の471億円と2年連続の増加となった。この結果、音楽ソフト（オーディオ+音楽ビデオ）の生産金額と有料音楽配信売上の合計は前年比101%の3,015億円となり、3年ぶりにプラスに転じた。

当協会では平成26年度より協会が担う役割を4つ（①業界の収益を「伸ばす」、②違法を「なくす」、③レコード産業への理解・著作権思想を「広める」および④業界の情報基盤整備により足元を「固める」）に整理し、優先度を付けて事業に取り組んでおり、平成27年度は、4つの役割の観点から協会の既存事業の見直しを行うとともに、以下の事業を推進した。

事業活動

[1] レコードの普及に関すること

1. 「音楽CDの再販制度」の維持と弾力的運用の推進

- (1) 会員各社の再販弾力運用の取り組みを報告書に取りまとめ、3月に公正取引委員会へ提出し、当協会ホームページで公表した。
- (2) ユーザーサービスの一環として実施しているインターネット廃盤セールを、1月6日から1月20日の間実施した。

2. レコードの需要拡大施策の展開

- (1) ミュージック・ジャケット大賞の実施
平成27年3月よりWeb投票を開始するとともに、5カ所の特設会場で投票を実施し、総投票者数は前年比160%の31,980名となった。受賞作品（大賞：椎名林檎「逆輸入～港湾局～」）は、5月14日「Music Jacket Gallery」内覧時に会場で発表し、NHK-BS「J-MELO」をはじめ新聞・Webニュース等で取り上げられた。
- (2) CDショップ大賞への協賛
「第8回CDショップ大賞」（主催：全日本CDショップ店員組合）は、CDショップ店員782名の投票により受賞作品（大賞：星野源「YELLOW DANCER」／準大賞：水曜日のカンパネラ「ジパング」、WANIMA「Are You Coming?」）が選出され、3月9日の授賞式で発表された。その模様は主要なテレビ・ラジオ番組や新聞、Webニュース等で取り上げられた。また、主要販売チェーン店でコーナー展開を実施し、売りに貢献した。

3. 日本ゴールドディスク大賞の実施

第30回となる「日本ゴールドディスク大賞」各賞は2月27日にプレスリリースで発表した。テレビ8番組のほか、新聞各紙、Webサイト等で多く取り上げられた。

4. 日本音楽の海外展開の促進

- (1) 音楽産業・文化振興財団（PROMIC）主催「第12回東京国際ミュージックマーケット（TIMM）」（10月20日～22日開催）への運営支援を行うとともに、当協会主催でシンクロライセンスの促進を目的としたセミナーを実施した。TIMMを含めたTIFFCOM、TIAFとの合同マーケット（Japan Content Showcase2015）としての総来場者数は23,669名（前年比132%）だった。また、「The Great Escape」（ロンドン、5月14日～16日）および「J-POP SUMMIT」（サンフランシスコ、8月7日～9日）のPROMIC主催ステージに協賛し、それぞれのステージに会員社から各2組、計4組のアーティストが出演した。
- (2) 日本音楽のプロモーション事業「J-Music LAB」を、今年度はバンコク（平成27年11月）と台北（平成28年1月）で実施した。ライブやファン交流会、商談会等を行い、現地における関係者とのリレーション構築および日本音楽普及に努めた。
- (3) SNSにおける日本音楽情報の発信を目的として、経済産業省のコ・フェスタアンバサダー（海外留学生）から音楽好き18名を選定し、各アンバサダーのfacebookなどのSNS、Web等における情報発信を開始した。

5. 「Coming Next 2016」の実施

新人育成等を目的とした「Coming Next 2016」（正会員18社各社1組ずつ選りすぐりのアーティストが出演するイベント）を2月11日にNHKホールで開催した。約2,000名が来場し、当日の様子はMusic ON! TVで放映された。またPR施策として、ナタリー、第一興商、レコチョク、HMV、タワーレコード、山野楽器等と連携し、ラジオ、Web等で展開を図った。

6. 大学寄附講座の開設

若年層のレコード産業・著作権制度への理解を深めるこ

とを目的とした大学寄附講座「クリエイティブビジネスと著作権」（全15コマ）を、昨年に引き続き明治学院大学で開講し、560名が履修した。

7. RIAJセミナーの開催

会員社を対象に6回（①「新入社員合同研修会」、②「[MERLIN]の概要とライセンス活動について」、③「マイナンバー制度について」、④「スマートフォンユーザー音楽視聴実態調査」報告会、⑤「(株)イーライセンスにおける今後の著作権管理事業の展望について」、⑥「音楽メディアユーザー実態調査」報告会）開催した。

8. その他

“Music J-CIS”（Music Japan-Copyright Information Service）の構成団体として活動を行った。音楽権利情報データベースを充実させるため、平成27年度発売新譜等の楽曲情報取り込みを実施した。その結果、平成27年度末時点での収録楽曲総件数は約485万件まで拡大した（前期末約467万件）。

[2] レコード等に関する調査研究およびデータの収集

1. 市場調査、産業統計の充実

音楽パッケージソフトの月別生産実績ならびに四半期ごとの音楽配信売上実績を集計し公表した。

2. 音楽に関する消費者実態調査の実施

「2015年度音楽メディアユーザー実態調査」を実施し、ユーザーの音楽利用実態の推移や音楽消費の変化に関する定点観測のほか、「定額制音楽配信サービス」、「ハイレゾ配信」を特定テーマとし、音楽配信についてのユーザー動向を深掘りし、会員社向けに調査結果報告会を開催した。

[3] レコードを通じた音楽文化の保存に関すること

1. 文化庁芸術祭への協力

「第70回文化庁芸術祭」のレコード部門申請窓口として38作品を参加申請し、参加が承認された31作品の中から芸術祭大賞1作品、優秀賞3作品が選出された。

2. 日本プロ音楽録音賞の共催

優秀な音楽録音作品を選定し、その録音エンジニアを顕彰する「第22回日本プロ音楽録音賞」を、当協会と日本音楽スタジオ協会、日本ミキサー協会、日本オーディオ協会および演奏家権利処理合同機構MPNにより共催し、12月4日に授賞式を開催した。

[4] 著作権および著作権隣接権等の普及・啓発に関すること

1. 違法音楽配信を撲滅するための対策の強化

- (1) 動画共有サイト、ストレージサービス等に対する違法アップロードファイルの削除要請件数は年間約61万2,000件となった（前年度約92万件）。著作権保護・促進センター（CPPC）を設立した平成25年度より、違法アップロード全体において大きな比重を占めていたYouTube上の違法ファイル削除を最重点として取り組んだことの成果として、同サイトに対する今年度の削除要請件数は30万8,964件（前年比：47%）と大幅に減少した。また、4月より開始した「google検索結果における違法ファイルの非表示要請」については、年度計で7,245件、削除率は92%となった。
- (2) 中国の違法サイト対策において、IFPIロンドン本部およびアジア地域事務所、当協会北京代表処と連携し取り組んだ結果、長年対応に苦慮していたXiami等のサイトが削除要請に応じるようになった。
- (3) スマートフォン向けアプリマーケット運営事業者に対する有害アプリ削除要請を継続実施（App Store：34件、google play：11件）し、人気上位の音楽関連有害アプリの拡散最小化に努めた。
- (4) 音楽ファイルの違法アップローダーや海賊盤の頒布者に対する告訴件数は13件であった（前年度実績13件）。
- (5) 「ファイル共有ソフトを悪用した著作権侵害対策協議会」（CCIF）が実施するプロバイダを通じた違法P2Pユーザーに対する啓発メール送信スキームを継続し、493件の啓発メールを送付した。
- (6) P2Pファイル共有ソフトの悪質利用者17名を抽出し発信者情報開示請求を実施した。発信者情報が開示された7名については損害賠償請求交渉を実施中であり、一方、非開示の10名については発信者情報開示請求訴訟を提起した。

2. 違法利用を抑止する啓発キャンペーン等の周知活動

会員社および当協会が対応する職場訪問（主に全国中高生）時に使用する「著作権啓発映像」を新たに作成した。その映像は平成28年度改訂版「教育芸術社教科書準拠の中学校副教材」として全国2,000校への導入が見込まれている。

3. 著作権教育活動の実施

- (1) 中高生の会員社および当協会への職場訪問・出張授業対応実績は、1,866名となった。
- (2) NTTドコモ主催「スマホ・ケータイ安全教室」において、当協会の啓発リーフレット76万7,000部を配布した。

4. レコード保護期間の延長に向けた活動

IFPIとともに関係省庁等を訪問し、要望を行った。その後、TPP協定に盛り込まれている著作権関連項目について、11月4日の文化庁 法制・基本問題小委員会ヒアリングに臨み、レコード保護期間延長等の早期実現を要望した。

5. 私的録音録画補償金制度の見直しを求める活動

音楽権利者団体と連携し、文化審議会傘下の小委員会における検討に参画した。

6. レコードの業務上の利用から適正な対価が還元される制度創設に向けた活動

海外の関係権利者団体と連携し、関係省庁等に対して制度創設の要望を行った。

[5] レコード等に関するデータの公表

1. 出版物の刊行

月刊機関誌「THE RECORD」を発行し、会員社、関係団体、官公庁、マスメディア、業界関係者などに配布した。また、日本のレコード産業の年間統計資料集として「日本のレコード産業2016」を和文、英文で制作した。発行および当協会ホームページ上での公開は平成28年4月予定。

2. ホームページの運営

ホームページを全面リニューアルし、コンテンツを充実させ、ユーザーの利便性を高めた。ホームページでは当協会の活動とさまざまなレコード産業に関する情報を幅広く提供している。

[6] レコード製作者に係る商業用レコードの二次使用料に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

1. 放送二次使用料収入の安定的確保

- (1) 平成27年度の二次使用料について、NHKは15億1,700万円（前年比5.8%増）、民放連は36億9,800万円（前年比1.0%増）で確定した。
- (2) 全国有線音楽放送協会（キャンシステム等）と平成27年度から平成34年度まで8年契約を締結した。
- (3) 二次使用料・複製使用料等の徴収額の合計は71億2,200万円（前年度比4.2%減）、権利者分配額は66億3,600万円（前年度比4.2%減）となった。

[7] レコードに関するレコード製作者の複製権、譲渡権および送信可能化権等ならびに実演家の送信可能化権等に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

1. 放送番組のネット配信にかかる集中管理に関する取り組み
TOKYO MXの地上テレビサイマル実験およびCATV自主制作チャンネルのサイマル配信に対応するため、それぞれ該当の使用料規程を新設し、集中管理事業を開始した。
2. 教育・文化系催事のレコード利用集中管理事業の推進
NHK放送コンテスト・パトントワリング大会に係るレコード複製について、平成27年度の許諾件数・音源数は846件・991曲だった。また、馬術大会でのレコード利用について、8月以降、日本馬術連盟との間で協議を重ね、馬術大会の円滑な実施を第一義として、今後1年間かけてレコード使用実態を調査し、許諾ルールを整備する旨の協定を締結した。
3. ブライダルコンテンツの実証実験
平成28年3月末現在のISUM登録事業者数はブライダル関係事業者769社であり、平成27年度の許諾実績は54,718件・1,784曲であった。
4. ロッカー型クラウドサービスに係る権利処理スキームの検討
集中管理のニーズが存在する利用形態について、関係事業者へのヒアリングを実施したが、具体的なニーズの把握には至らなかったため、まずは、音楽の利用に係る権利処理の相談窓口を設置して事例蓄積を図ることとした。
5. 放送番組の海外展開に係る原盤権処理効率化の取り組み
平成27年度の実証実験による海外番販成立件数は9局32番組であり、左記32番組について38原盤が許諾済みとなっている。

[8] レコード製作者に係る商業用レコードの公衆への貸与に係る報酬等に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

徴収額は23億2,300万円（前年度比10.4%減）、権利者分配額は21億6,300万円（前年度比10.3%減）となった。

[9] 私的録音補償金に関する指定管理団体の構成員としての業務ならびにレコード製作者に係る当該補償金の受領および分配

1. 私的録音補償金

私的録音補償金管理協会（sarah）から1,200万円（前年度比52.0%減）を受領し、1,100万円（前年度比44.7%減）を権利者に分配した。

[10] その他

1. 政府の審議会等への委員派遣および経済団体への参画等
文化審議会著作権分科会等へ委員を派遣するなど、外部の会議体等に積極的に参画し、意見の表明を行った。

2. 国内・国外の団体、機関との連携活動

国内の音楽関係団体ならびに国際レコード産業連盟（IFPI）およびアメリカレコード協会（RIAA）等海外のレコード産業団体との連携と情報交換を実施した。

3. 「レコード倫理審査会」の開催・運営

月次会議にて会員社から発売された全邦楽作品8,963点について審査を行った。

4. 業界規格（RIS）の制定と改正

日本レコード協会規格（RIS）504別冊「各種コード一覧表」（平成27年4月版）を発行した。

5. “ISRC”（International Standard Recording Code）の管理機関としての活動

登録者コードの新規発行件数40件（前年度60件）、個別コードの発行曲数は16,400曲（前年度16,620曲）であり、3月末の累計数は登録者コード1,756件、個別コード18万761曲となった。

6. 福祉・厚生施設へのレコード寄贈

今年度（第53回）は、8,560枚の音楽CDを福祉施設200カ所ならびに東日本大震災被災地の臨時災害放送局6局および図書館75カ所へ寄贈した。

7. 会員社業務の集約化（シェアードサービス）

平成27年2月より、都内エフエム局を対象として、放送用音源ファイルの提供を含むオンライン・プロモーションの実証実験を平成27年6月まで行った。

運営体制

平成27年度における当協会の運営体制は次の通りである。



Music Jacket Gallery 2016 開催

Music Jacket Promotion Committee 主催の「Music Jacket Gallery 2016」が、5月13日～22日の期間、新宿高島屋にて開催された。

第10回目を迎えた今回は、選りすぐりの豪華・特殊パッケージ約70点や、「猫ジャケ」「車(カー)ジャケ」といったテーマに沿っての展示、試聴コーナーを設置。さらに、アーティストやクリエイティブディレクターを迎えてのトークショーおよびハイエンド・オーディオ試聴会を実施し、会期中、約15,000名が来場した。



01 豪華・特殊仕様パッケージ 2015

豪華・特殊仕様パッケージ 70点を一挙展示

02 テーマジャケット：猫&カー



愛猫家も注目の「猫ジャケ」コーナー



カーマニアも垂涎の「車(カー)ジャケ」コーナー



03 高音質 CD & レコード聴き比べ

高音質 CD と通常 CD の比較試聴、アナログレコードを自分で操作する体験試聴を実施

04 「ミュージック・ジャケット大賞 2016」受賞作品発表



受賞作品・大賞候補 50 作品の現物を展示したミュージック・ジャケット大賞コーナー

05 新宿高島屋開店 20 周年記念 薔薇ジャケット特集



会場である新宿高島屋の開店 20 周年を記念し、高島屋のオリジナルマスコット「ローズちゃん」とシンボルフラワーである薔薇のジャケットを展示



06 音楽 Blu-ray Disc 映像作品上映

75 インチ大型 4K 液晶モニターにて音楽 BD を上映

07 イベント

<トークショー>



愛猫家としても有名なミュージシャン・坂本美雨さんを招いてのトークショー「坂本美雨さんに訊く、猫と音楽のおはなし」



ランティス・クリエイティブルームチーフプロデューサーの小島冬樹さんによるトークショー「音楽ジャケット、クリエイティブの現場から」

<試聴会>



ハイエンド・オーディオによる高音質 CD & アナログレコード試聴会



タイ・バンコクで国際ドラマフェスティバル「J-Series Festival」開催 ～日本から2組のアーティストが音楽ライブ出演～

日本ドラマなど放送コンテンツを海外に向けてプロモーションする国際ドラマフェスティバルin TOKYO 実行委員会(委員長: 井上 弘 [民放連会長・TBS テレビ会長]) が主催するイベント、J-Series Festival が2016年6月4日タイ・バンコク市内の高級ショッピング・モール Siam Paragon 内「Siam Pavalai Theater」にて開催された。2013年にタイでスタートしたこのイベントは、昨年6月のインドネシアに続きタイで3度目。

インターネット募集で集まった約1,000名の現地ファンが、本イベントのために来タイした元AKB48のメンバーで女優の大島優子さんと Hey!Say!JUMP のメンバーで俳優の有岡大貴さんによるトークショー、日本アーティストによる音楽ミニライブなどを楽しんだ。

当協会は本イベントで実施された日本アーティスト出演の音楽ミニライブに協力。武田鉄矢プロデュース・アイドルユニットの**赤マルダッシュ☆**(日本コロムビア株式会社)と沖縄県出身アニソンシンガーの**MICHI**(株式会社ポニーキャニオン)の2組が出演した。どちらも近年積極的に海外イベント参加しており、堂々としたパフォーマンスで満員の観客席を沸かせた。また、**赤マルダッシュ☆**がCM出演している関係から東洋水産株式会社が特別に「マルちゃん赤いきつね」を当選者プレゼントとして提供。抽選会では会場が大いに盛り上がった。

また、同日 J-Series Festival 終演後に同じバンコク市内サイアムエリアの商業施設 MBK Center 7階「アニメイト・バンコク店」にて**赤マルダッシュ☆**と**MICHI**のミニライブ、即売会、購入者特典サイン会が行われた。現地のファン約100名が参加し、日本のアーティストと間近に触れ合う貴重な機会を楽しんだ。

「アニメイト・バンコク店」は株式会社ジャパンマンガアライアンス(JMA)による東南アジアで初となるマンガ・アニメ大型専門店として2016年2月にオープン(JMAは、アニメイト、KADOKAWA、講談社、集英社、小学館の5社が海外のファンに日本の本物を提供するために設立した合併会社)。600㎡を誇る売場に、日本国内店と遜色ない商品数、店舗運営、サービスを結集して日本のコンテンツを現地のファンに提供している。店内には、期間限定フェアや展示を可能にする「催事スペース」、上映会・ミニコンサート用の「シアタールーム」もあり、日本コンテンツの情報発信拠点としての機能も担っている。

SPECIAL EVENT! เตรียมพบกับศิลปินจากญี่ปุ่น **animate**

MICHI

Akamaru Dash☆

วันที่ 4 มิ.ย. 59 นี้ เวลา 18.30-21.00 น.

กำหนดการกิจกรรม

- 18:30-19:30 จำหน่าย CD (บริเวณหน้าร้าน)
- 19:30-20:00 Mini Live (Theater Room)
- 20:00-21:00 จำหน่ายกล่อง (บริเวณหน้าร้าน)

พบกับ **animate Bangkok** [MBK Center ชั้น 7]



第13回東京国際ミュージック・マーケットが 開催決定



10月24日から26日の3日間、日本音楽の海外進出を目的とした、第13回東京国際ミュージック・マーケット（13th TIMM）の開催が決定した。今年から中心となる場所を渋谷に移し、24日、25日に商談会、ビジネス・セミナーを渋谷エクセルホテル東急にて、26日のみ、ホテルグランパシフィック LE DAIBAにて開催する。

13th TIMMは合同マーケット「Japan Content Showcase 2016（JCS2016）」にて、TIFFCOM 2016 Marketplace for film & TV in Asia、東京国際アニメ祭2016秋（TIAF）と共同で開催される。JCS 2016は、全世界から日本のコンテンツを求めて、1,000人以上のバイヤーやメディアが訪れる国際的なマーケットである。

今年から、商談会場、ビジネス・セミナーを渋谷エクセルホテル東急にて行うことにより、業界関係者がより気軽に参加できる環境を整えた。また、昨年好評を得たビジネス・セミナーは、昨年を上回る数を開催予定。現時点で、ロサンゼルスを拠点として活動する音楽プロデューサーのKaz Utsunomiya氏、ソニー・ミュージック エンタテインメントの元社長であり、現在は（株）247の代表取締役、またS.M.Entertainment顧問としても活躍する丸山茂雄氏、United Talent Agencyにて、BABYMETAL、きゃりーぱみゅぱみゅ、Crossfaithなど日本人アーティストの海外コンサート・ブッキングを担当するRoss Warnock氏をスピーカーとして迎えることが決定している。

また、13th TIMMの連携イベントとして、24日から26日の夜にTSUTAYA O-EASTにて、複数のアーティストが出演するライブが実施される。詳細は、オフィシャル・サイトにて順次公開を予定。（<http://www.timm.go.jp/>）

第13回東京国際ミュージック・マーケット（13th TIMM）

日程：2016年10月24日（月）～26日（水）

会場：渋谷エクセルホテル東急（10月24日、25日）、ホテルグランパシフィック LE DAIBA（10月26日）

Japan Content Showcase 2016 入場料（早割料金）：13,500円（税込） ※9月9日（金）まで

渋谷エクセルホテル東急（10月24日、25日）、

ホテルグランパシフィック LE DAIBA（10月25日、26日、27日）に入場可能。

参加登録はこちらから（<http://www.jcs.tokyo/ja/entry/visitor/>）

< TIMM 連携ライブ >

日程：2016年10月24日（月）、25日（火）、26日（水）

会場：TSUTAYA O-EAST

入場料や出演アーティスト他の詳細は、TIMM オフィシャル・サイトにて後日発表。

ゲストスピーカー



Kaz Utsunomiya 氏



丸山 茂雄 氏



Ross Warnock 氏

主催：経済産業省、公益財団法人ユニジャパン、一般財団法人 音楽産業・文化振興財団、一般社団法人 日本動画協会

「知的財産推進計画 2016」が決定

5月9日、首相官邸で知的財産戦略本部会合が開催され、「知的財産推進計画 2016」が決定した。

知財本部の下に設置された、検証・評価・企画委員会における審議を通じ、ビジョン実現のための毎年度の行動計画として策定されるのが「知的財産推進計画」である。今年はIoT、ビッグデータ、AI（人工知能）など、第4次産業革命の進展と超スマート社会への展望や、TPP協定をきっかけとした経済のグローバル化を見据えた内容が盛り込まれている。以下に、全体構成および内容を紹介する。

第1. 第4次産業革命時代の知財イノベーションの推進

1. デジタル・ネットワーク化に対応した次世代知財システムの構築

- デジタル・ネットワーク時代の著作権システムの構築
 - 著作権が及ばない例外（権利制限）を認める柔軟性のある権利制限規定の具体化
 - 許諾（ライセンス）の円滑化
 - ① 権利者不明著作物に対する裁定制度整備
 - ② 拡大集中許諾の導入可能性検討
 - ③ 権利情報を集約したデータベース整備
- 新たな情報財の創出に対応した知財システムの構築
 - AI創作物や3Dデータ、データベース等の新しい情報財の知財保護について検討
 - 個人が本人のデータを蓄積・管理、活用する仕組み等データ流通の円滑化方策の検討
- 国境を越えた知財侵害対策
 - リーチサイトへの対策、悪質な侵害サイトへのオンライン広告等への対応

2. オープン・イノベーションに向けた知財マネジメントの推進

- オープン・イノベーションのための産学・産産連携機能の強化
 - 産学共創プラットフォーム、橋渡し・事業化支援機能整備と支援人材連携
 - 大学の知財マネジメントの強化、産学連携機能評価による活動改善の促進
- オープン&クローズ戦略に基づく戦略的な標準化の推進
 - 国立研究開発法人を含め官民一体での社会システムや先端技術の国際標準化の強化
 - 中堅・中小企業等の標準化の推進、海外認証取得の支援

第2. 知財意識・知財活動の普及・浸透

1. 知財教育・知財人材育成の充実

- 小中高、大学等における知財教育の推進
 - 小中高：次期学習指導要領に沿った創造性の涵養と知財の保護・活用に向けた教科横断的カリキュラム・マネジメントの実現
 - 大学等：知財科目を全学必修化した山口大学を参考に、各大学での知財科目の開設等の自主的な取り組みを促進
- 地域・社会と協同した学習支援体制の構築
 - 全国および地域での「知財教育推進コンソーシアム（仮称）」の構築
- 人材育成
 - 知財マネジメント人材、標準化人材等の育成

2. 地方、中小企業、農林水産分野等における知財戦略の推進

- 知財活用途上型中小企業に対する戦略的普及活動
 - 知財総合支援窓口等による知財相談機能の強化・積極的な普及活動
 - 中小企業支援関係者に対する普及啓発
- 知財活用挑戦型中小企業に対する支援強化
 - 知財の権利取得から権利行使・活用まで一貫通貫の海外展開支援強化
 - 知財活用の相談機能強化、デザイン・ブランドの活用、融資における知財活用の促進
- 農林水産分野等における知財戦略の推進
 - 地理的表示（GI）の活用と普及・啓発
 - 日本産酒類のブランド価値向上

第3. コンテンツの新規展開の推進

1. コンテンツ海外展開・産業基盤の強化

- コンテンツと非コンテンツの連携強化
 - 「クールジャパン官民連携プラットフォーム」を通じた異業種間（コンテンツ産業と非コンテンツ産業）の連携促進
 - 民間主導によるクールジャパン発信拠点構築とネットワーク化の促進
 - 地域の魅力発信支援とロケ誘致促進
- 継続的なコンテンツ海外展開に向けた支援
 - 現地放送枠の確保、コンテンツのローカライズや国際共同製作支援、権利処理の円滑化
- コンテンツ産業基盤強化等のための取り組み
 - プロデューサー、クリエイター等の人材育成
 - 資金調達等制度的な課題等への対応
 - 模倣品・海賊版対策の強化

2. デジタルアーカイブの利活用の促進

- アーカイブ間の連携の促進
 - 国の分野横断統合ポータル推進（国立国会図書館サーチと文化遺産オンラインの連携）
- 書籍・文化財等分野ごとの取り組みの促進
 - 分野ごとの束ね役によるメタデータの集約化
- アーカイブ利活用に向けた基盤整備
 - メタデータのオープン化、著作権制度の整備

第4. 知財システムの基盤整備

1. 知財紛争処理システムの機能強化

- 知財紛争処理システムの機能強化
 - 適切かつ公平な証拠収集手続きの実現（中立的な専門家による査察制度、書類提出命令発令の容易化など）
 - ビジネスの実態やニーズを反映した適切な損害賠償額の実現
 - 権利付与から紛争処理プロセスを通じての権利の安定性の向上
- 知財紛争処理システムの利用支援
 - よろず支援拠点・テレビ会議の活用等中小企業や地方の知財司法アクセスの改善

2. 世界をリードする審査の実現によるグローバル事業展開支援の強化

- 世界最速・最高品質の審査の実現
 - 特許審査の迅速化と質の向上のための体制整備
- 国際連携の推進
 - 新興国等への審査官派遣や審査協力、司法関係者などへの研究実施
- 特許行政サービスの質向上
 - 人工知能技術を活用した特許行政サービスの高度化・効率化の可能性の検討

「知的財産推進計画 2016」本文は、以下参照。
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/kettei/chizaikaikaku20160509.pdf>

多くの人を魅了したヒット曲は、どのように世に送り出されたのか。音楽人の苦闘が織り込まれた『ヒットの裏側』をリレー形式でひも解いていく。



既成概念を打ち破り、果敢に攻めよ

数下 晃正氏

株式会社ソニー・ミュージックレーベルズ

ソニー・ミュージックアソシエイテッドレコーズ A&R ルーム 2 チーフプロデューサー

❖ 誰も売れると思っていなかった、ヒップホップ

僕は、学生時代から雑誌 POPEYE (マガジンハウス刊) の編集アシスタントをやっており、編集プロダクションに在籍していました。その後、タイミングよくソニー・ミュージックエンタテインメント (SME) の新部門、スタッフルーム 3rd の求人があり、音楽も大好きだったので応募し採用されました。紙媒体の経験を宣伝に活かしてほしいとの期待もあったのでしよう。

入社まもなく複数のレーベルが統合されキューン・ソニーレコード (キューン) が発足、僕は販促 4 課というタイアップ・セクションに配属されました。しかし当時はショート・ドレッドにジャージ、サンダル履きで出社するようなクソガキだったので、タイアップは全く取れませんでした (笑)。でもまあ、当時のキューンは豪傑ぞろい。レーベルの自由度も際立っていたので僕のようなチンピラでもトップの丸山 (茂雄) さんに面白がってもらえて、早々に制作に移りました。

と言っても最年少の僕に先輩は何も教えてくれません。先輩方は皆、夕方 5 時頃に姿を見せ始めるような環境でしたからね (笑)。そんな中、僕と世代が近く、次が売れなければ契約終了になってしまいそうな瀬戸際のアーティストを担当することになりました。それがスチャダラパーでした。当時ヒップホップは誰も売れると思ってなかったけれど、僕は非常に興味があり、彼らに可能性を感じて自ら手を挙げました。同世代のアーティストと連携して、僕らの好きな音楽をどうやったら世に送り出せるか考え抜き、取り組む毎日が続きました。

❖ 1+1 がいくつになった?

既に背水の陣の状況で、まずは宣伝や営業の現場スタッフが「これはいい、売れるぞ」とリマインドできるような楽曲、企画を探していました。そんな中、『今夜はブギー・バック』は、まず若い宣伝スタッフに大好評を博しました。この曲は、さまざまな外部アーティストとのコラボによるミニアルバム『スチャダラ外伝』に、東芝 EMI (EMI) でソロ活動を始めたばかりの小沢健二さんを迎え、共に曲作りを進める中で生まれ、育った一曲です。そして、現場のディレクター同士で「いい曲だから SME と EMI で同時リリースしない?」という前代未聞のアイデアが持ち上がりました。最初は管理部門から門前払いされたものの、僕のしつこさにほだされたのか? (笑) 最終的に多くのヒントを頂きました。結果、原盤を完全に 2 社でセパレートし、各バージョンの出版も別曲とすることで実現! 悪乗りは止まらず、丸

山さんと EMI の石坂敬一さんまで引っ張り出し、両社トップ・ディレクター・アーティスト全員が一葉の疑似家族写真に収まる、今から考えるとあり得ない広告を伊勢丹写真館で撮影 (笑)。2 ヴァージョンともヒットし、以降これを前例にレーベル越境の同時企画が出せるようになりました。さらに、このヒットで小沢さんは現在につながる音楽性を見出し、スチャダラパーはヒップホップをお茶の間レベルに浸透させることに成功! 1+1 が結果として 100 にも 1,000 にもなったんじゃないかな? 時代感をつかめたこの経験が、後の真心ブラザーズの『サマーヌード』のヒットにもつながります。それまでのフォークっぽさを脱却し、当時胎動していた渋谷系の流れと共鳴、新しいロック・バンドとして生まれ変わるというパラダイムシフトに成功しました。

❖ 歌詞型ディレクターのメッセージ

最近では、どう売れるかが重視される一方、作品そのものへの言及が減っている気がします。確かに、SNS を中心とする若者のタイムラインになかなか音楽の居場所がなく、制作者には厳しい時代です。しかしヒットチャートをよく見ると、実はジャンルに関係なく、コンテンツの素地を丹念に磨いている質の高い楽曲がたくさんあります。やはり中身は重要ですし、既成概念を打ち破り、果敢に攻めなければリスナーの記憶に残るのささ難しいと思います。

特に大切にしたいのは歌詞です。僕は割と歌詞型のディレクターで、言葉に非常にこだわりを持っています。シンガーソングライターが主流になり、本人が歌詞を書いているから好きにさせればよいという向きもあるけれど、それではいけない。必然性のない、雰囲気だけで逃げようとする歌詞には容赦なく駄目出しします。美しい言葉や文学的語彙がなくても、確かなスタイルがあれば人に伝わる歌詞は作れる。歌詞の方向性が定まらないアーティストには、まずはどんな歌詞が好きなかを突き詰めることを勧めます。例えば好きな曲を 10 曲厳選し、好きな理由を検証していくとそのアーティストの個性や嗜好性が浮かび上がってくる。そこから自分のタッチを導き出せばいい。さらに、歌詞は限られた文字量の中で、物語を鮮明に喚起させることが重要です。例えばビートルズの『She loves you』。「僕」の人称がなくても「彼女は君が好き」の一言で、「僕」が「彼女」の眼中にないことが分かる。ニュアンスで物語をどこまで語れるかがどうか決め手です。むしろ歌詞が書けないと自覚しているのなら、プロの作詞家に頼むのも決して恥ずかしいことではないと思います。(談)

担当アーティスト

スチャダラパー、真心ブラザーズ、ネーネーズ、SILVA、ゆらゆら帝国、ミドリ、フジファブリック、凜として時雨、フラワー・カンパニーズ、女王蜂、夢みるアドレセンス、XOX、三戸なつめ ほか多数

Monthly Production Report

2016年5月度レコード生産実績

5月度の音楽ソフト（オーディオレコード・音楽ビデオの合計）の生産実績は、数量で前年同月比98%の1,671万枚・巻、金額で同90%の170億円となった。

内訳は、オーディオレコードが、数量で前年同月比93%の1,313万枚・巻、金額で同84%の134億円。音楽ビデオが、数量で前年同月比123%の358万枚・巻、金額で同121%の37億円となっている。

● オーディオレコード

(数量:千枚・巻/金額:百万円)

		5月実績						2016年1月～2016年5月累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
8cmCD シングル	邦	3	0	98%	2	0	95%	25	0	153%	17	0	176%
	洋	0	0	0%	0	0	0%	0	0	150%	0	0	146%
	計	3	0	95%	2	0	92%	25	0	153%	17	0	176%
12cmCD シングル	邦	6,340	48	103%	4,868	36	113%	22,245	34	92%	16,832	23	96%
	洋	3	0	91%	1	0	67%	105	0	325%	34	0	275%
	計	6,343	48	103%	4,870	36	113%	22,350	34	93%	16,867	23	96%
シングル 計	邦	6,343	48	103%	4,870	36	113%	22,270	34	92%	16,849	23	96%
	洋	3	0	89%	1	0	65%	105	0	323%	34	0	274%
	計	6,345	48	103%	4,871	36	113%	22,375	34	93%	16,883	23	96%
12cmCD アルバム	邦	4,948	38	81%	6,593	49	68%	34,573	52	95%	46,540	65	90%
	洋	1,707	13	94%	1,729	13	102%	8,347	13	87%	7,684	11	88%
	計	6,655	51	84%	8,322	62	73%	42,920	65	93%	54,223	75	89%
CD 計	邦	11,291	86	92%	11,463	86	81%	56,843	86	94%	63,889	88	91%
	洋	1,709	13	94%	1,730	13	102%	8,452	13	88%	7,718	11	88%
	計	13,000	99	93%	13,193	99	84%	65,294	99	93%	71,107	99	91%
アナログ ディスク	邦	16	0	141%	26	0	133%	101	0	77%	231	0	103%
	洋	29	0	178%	50	0	192%	132	0	143%	223	0	149%
	計	45	0	162%	76	1	166%	233	0	105%	454	1	121%
カセット テープ	邦	66	1	100%	54	0	97%	354	1	91%	300	0	94%
	洋	0	0	-	0	0	-	1	0	-	1	0	-
	計	66	1	100%	54	0	97%	355	1	92%	300	0	94%
その他	邦	9	0	58%	18	0	61%	54	0	90%	98	0	104%
	洋	10	0	49%	18	0	60%	67	0	77%	131	0	69%
	計	19	0	53%	37	0	61%	121	0	82%	229	0	81%
合計	邦	11,382	87	92%	11,562	87	82%	57,351	87	94%	64,017	89	91%
	洋	1,748	13	95%	1,798	13	102%	8,652	13	89%	8,073	11	88%
	計	13,130	100	93%	13,360	100	84%	66,003	100	93%	72,090	100	91%

● 音楽ビデオ

		5月実績						2016年1月～2016年5月累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD	邦	3,092	86	124%	2,355	64	104%	18,007	80	88%	19,294	66	90%
	洋	98	3	88%	129	4	124%	335	1	68%	439	1	71%
	計	3,190	89	123%	2,484	67	105%	18,341	82	88%	19,733	67	89%
ブルーレイ ディスク	邦	362	10	129%	1,114	30	173%	3,962	18	94%	9,325	32	96%
	洋	26	1	91%	87	2	285%	89	0	109%	258	1	139%
	計	389	11	125%	1,201	33	178%	4,051	18	94%	9,583	33	97%
テープ・その他	計	0	0	-	0	0	-	1	0	71%	1	0	67%
	邦	3,455	97	125%	3,468	94	119%	21,969	98	89%	28,620	98	92%
	洋	124	3	89%	217	6	161%	424	2	73%	697	2	87%
合計	計	3,579	100	123%	3,685	100	121%	22,393	100	89%	29,317	100	92%

● 音楽ソフト（オーディオ/音楽ビデオ合計）

		5月実績						2016年1月～2016年5月累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオレコード計		13,130	79	93%	13,360	78	84%	66,003	75	93%	72,090	71	91%
	音楽ビデオ計	3,579	21	123%	3,685	22	121%	22,393	25	89%	29,317	29	92%
合計	邦	14,837	89	98%	15,030	88	88%	79,321	90	92%	92,637	91	91%
	洋	1,872	11	94%	2,015	12	106%	9,076	10	88%	8,770	9	88%
	計	16,710	100	98%	17,045	100	90%	88,396	100	92%	101,407	100	91%

● ビデオレコード（含音楽ビデオ）

		5月実績						2016年1月～2016年5月累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD		7,280	85	174%	6,311	56	122%	36,064	74	111%	41,364	57	93%
ブルーレイディスク		1,287	15	140%	4,926	44	201%	12,387	26	129%	30,627	43	118%
テープ・その他		0	0	-	0	0	-	1	0	75%	1	0	74%
合計		8,568	100	168%	11,236	100	148%	48,452	100	115%	71,993	100	103%

● オーディオ/ビデオレコード合計

		5月実績						2016年1月～2016年5月累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオレコード計		13,130	61	93%	13,360	54	84%	66,003	58	93%	72,090	50	91%
ビデオレコード計		8,568	39	168%	11,236	46	148%	48,452	42	115%	71,993	50	103%
合計		21,698	100	113%	24,596	100	104%	114,455	100	101%	144,082	100	96%

備考 1. 本年実績は、会員会社の集計である。当会員社が受託した非会員社からの販売委託分を含む。
 2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。
 3. オーディオレコードのその他は SACD、DVD オーディオ、DVD ミュージック、MD の合計。
 4. 音楽ビデオ、およびビデオレコードのその他は LD、HD DVD の合計。

音楽ソフト

シングル

邦楽	トリプル・プラチナ	I seek / Daylight	嵐	2016.05.18	ジェイ・ストーム
	プラチナ	真剣SUNSHINE	Hey! Say! JUMP	2016.05.11	ジェイ・ストーム
	ゴールド	勝利の日まで	Sexy Zone	2016.05.03	ポニーキャニオン
		泡沫サタデーナイト / The Vision / Tokyoという片隅	モーニング娘。'16	2016.05.11	アップフロントワークス (ゼティマ)

アルバム

邦楽	プラチナ	それぞれの椅子	乃木坂46	2016.05.25	ソニー・ミュージックレーベルズ (ソニー・ミュージックレコーズ)
	ゴールド	May Dream	aiko	2016.05.18	ポニーキャニオン
		GALAXY OF 2PM	2PM	2016.04.27	ソニー・ミュージックレーベルズ (EPICレコードジャパン)

※日付は発売日

有料音楽配信

シングルトラック

邦楽					
ミリオン	手紙 ～拝啓 十五の君へ～	アンジェラ・アキ	2008.10.01	ソニー・ミュージックレーベルズ (EPICレコードジャパン)	
トリプル・プラチナ	Missing	久保田 利伸	2007.07.18	ソニー・ミュージックレーベルズ (SMEレコーズ)	
ダブル・プラチナ	粉雪	レミオロメン	2005.11.16	JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント	
プラチナ	COLORS	FLOW	2006.11.08	ソニー・ミュージックレーベルズ (キューンミュージック)	
	星間飛行	ランカ・リー＝中島愛	2008.06.25	JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント	
ゴールド	PERFECT HUMAN	RADIO FISH	2015.12.23	よしもとアール・アンド・シー	
	もっと	aiko	2016.03.16	ポニーキャニオン	
	SPELL MAGIC	Acid Black Cherry	2007.07.18	エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ	
	夢のチカラ	上戸 彩	2005.06.08	ポニーキャニオン	
	真夏の通り雨	宇多田 ヒカル	2016.04.15	ユニバーサル ミュージック	
	花束を君に	宇多田 ヒカル	2016.04.15	ユニバーサル ミュージック	
	さすらい	奥田 民生	2002.10.01	ソニー・ミュージックレーベルズ (キューンミュージック)	
	ナイショの話	ClariS	2012.01.25	ソニー・ミュージックレーベルズ (SMEレコーズ)	
	友よ ～ この先もずっと・・・	ケツメイシ	2016.03.23	エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ	
	サイレントマジョリティー	櫻坂46	2016.04.06	ソニー・ミュージックレーベルズ (ソニー・ミュージックレコーズ)	
	ピースとハイライト	サザンオールスターズ	2013.08.07	JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント	
	Feel So Alive	三代目 J Soul Brothers from EXILE TRIBE	2016.03.09	エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ	
	明日はきっといい日になる	高橋 優	2015.05.17	ワーナーミュージック・ジャパン	
	Shangri-La	電気グルーヴ	2002.10.01	ソニー・ミュージックレーベルズ (キューンミュージック)	
	あなたの好きなところ	西野 カナ	2016.04.27	ソニー・ミュージックレーベルズ (SMEレコーズ)	
	FLASH	Perfume	2016.03.16	ユニバーサル ミュージック	
	BANG BANG BANG	BIGBANG	2016.02.03	エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ	
	ブーン!	マイア・ヒラサワ	2011.03.12	JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント	
	SCARLET KNIGHT	水樹 奈々	2011.04.13	キングレコード	
	あなたがここにいて抱きしめることができるなら	miwa	2015.11.04	ソニー・ミュージックレーベルズ (ソニー・ミュージックレコーズ)	
いけないボーダーライン	ワルキューレ	2015.12.31	JVCケンウッド・ビクターエンタテインメント		

洋楽

ゴールド	ミザリー	マルーン 5	2010.08.18	ユニバーサル ミュージック	
------	------	--------	------------	---------------	--

※日付は配信開始日

認定基準一覧 音楽ソフト (アルバム・シングル・音楽ビデオ)、音楽配信 (着うた®, シングルトラック・アルバム) 共通

名称	ゴールド	プラチナ	ダブル・プラチナ	トリプル・プラチナ	ミリオン	2ミリオン
基準	10万以上	25万以上	50万以上	75万以上	100万以上	200万以上

基準単位: 音楽ソフト・枚、配信・DL (ダウンロード数)
 ※着うた®のみダブル・プラチナ以上を顕彰
 ※※「着うた®」は株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です
 ※※3ミリオン以降、100万毎に認定

協会からのお知らせ

文化庁では、平成28年度（第71回）文化庁芸術祭の参加作品を募集しています。対象は「演劇」「音楽」「舞踊」「大衆芸能」の公演および「テレビ」「ラジオ」「レコード」の作品です。参加公演・作品は、各部門で内容を競い合い、成果に応じて文部科学大臣賞が贈られます。



詳細は文化庁芸術祭のHPをご参照の上、奮ってご応募ください。

<http://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/jutenshien/geijutsusai/>



THE RECORD No.680 2016年7月号
一般社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 齊藤 正明
編集人 原 康晴
発行日 2016年7月11日
発行 一般社団法人 日本レコード協会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-2-5 共同通信会館9F
TEL. 03-5575-1301 (代) FAX. 03-5575-1313
URL: <http://www.riaj.or.jp/>

制作協力 株式会社エフピーアイ・コミュニケーションズ

編集後記

生誕300年を記念して都美術館で開催された「若冲展」。最長320分待ちという盛況ぶりで話題になりましたが、なんと44万人(!)が来場したそうです。行列に恐れをなして、今回は観に行けませんでした。10年前のプライスコレクション展で見た「鳥獣花木図屏風」のインパクトは忘れられません。1cm四方のマスキ目に色を塗り分けていくモザイク画のような手法、大胆なモチーフ、ポップさに感動しました。現代のクリエイターにインスピレーションを与え続ける存在というのも納得です。(M)

■ 当機関誌へのご意見・ご感想がございましたら、当協会公式サイト (URL: <http://www.riaj.or.jp/>) のお問い合わせページよりお寄せください。